

2いちご「日本一」真岡市の取り組みについて(2018.11.03 記録)

視察報告 2いちご「日本一」真岡市の取り組みについて

2018年10月30日、栃木県真岡市を訪れ、標記(ほか)の視察を行いました。

いちごの生産量、販売額が日本一の真岡市を訪れ、担当者の方の説明を聞き、生産地(ビニールハウス)を見学しました。



* 真岡市の公用車ですが、当地では行政の車を使用せずに移動できました。

まず、栃木県でいちご生産が先行したのは「足利市」であり、そこに4軒の農家が学び、苦労して苗をもらってきて栽培を始めたとのことでした。昭和32年に栽培が始まり、その後、米より生産収入が多いということで、栽培農家が増加して、今の日本一に至っています。

いただいた資料では、平成30年度 生産量:7,059t、販売額:81億1千万円、作付面積:140.8haとなっています。さらに、平成27年度野菜生産出荷統計(いちご)では、1位栃木県、2位福岡県、3位熊本県、4位長崎県、5位静岡県となっており、栃木県の中でも真岡市が176ha、茨城県鉾田市が128haとなっており、断突の日本一と称しているそうです。



また、過去 10 年間において、面積、戸数、生産量は減少していますが、単価が上がることで販売高が増加しているとのことでした。その統計資料をいただきました。

新規就農者への支援、管理技術の向上を求めた施策が取られていました。

いちごサミットが開催予定になっていました。2020年3月13-15日に予定され、各産地に呼びかけが行われています。

(所感)

いちごのブランドとして、栃木県は「とちおとめ、スカイベリー」があり、福岡県は「あまおう」熊本県「とよのか」、長崎県は「さちのか」、静岡県は「紅ほっぺ、章姫」があります。その他、多数の県が独自ブランドを開発し、しのぎを削っているのが実情です。

以前に、福岡県のいちご(あまおう)に関して、視察を行いました。福岡県農業試験場とJAが多くの分野で連携し、試験場が品種の改良、農家が全国トップ級の品物作りと、JAが流通、梱包・包装の改善を図っていました。今回の視察では、試験場やJAの入っていませんでしたので、全国トップの生産量と販売高の他方面の観察は入りませんでした。

また、現に、このいちごの名産地として、かなり以前は静岡県でした。(九州福岡県の出身者でも、知っていました)、美味しいもの、大きいものが品種改良され、県単位の競争が行われています。栃木県でも、新たな品種改良が図られ、新たなブランド名のいちごが誕生するでしょう。

記 町田市議会議員 吉田つとむ 保守の会